

1 本年度の重点教育目標

「令和の日本型学校教育」を踏まえ、特色と魅力ある学校教育の実現を目指す

2 本年度の取組の重点

- (1) 生徒一人一人の可能性を引き出し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す
- (2) 社会に開かれた多様で柔軟な教育課程の編成を目指す
- (3) 「新たな教師の学びの姿」の実現を目指す

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
学習指導	「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進する授業が行われているか。	b	観点別評価を丁寧に行うことにより、個々の学習の状況を的確に把握することができることから、引き続き推進に努める。	A	A	引き続き、観点別評価を適切に実施し、生徒個々の学習状況を把握し、学習指導の効果を高めていく必要がある。また、生徒の効果的なICT活用について、研修等を実施するなど継続的に改善に努めていく必要がある。
	教育DXに基づいた授業改善が行われているか。	b	タブレット等のICTの積極的な活用はもとより、生成AIの効果的な活用についても校内研修等により教員のスキルアップを進める。	A	A	
	「Ai GROW」検査結果を踏まえた、探究型学習の改善・充実が図られているか。	b	探究通信等を定期的に発行し、探究型学習の改善・充実を継続する。	A	A	
生徒指導	生徒一人一人の「自己指導能力」の育成が図られているか。	b	授業をはじめ、日々の学校生活全体の過ごし方すべてが生徒指導であることを認識しながら、生徒と一緒に考えていく体制を継続する。	A	A	生徒自らが自身を律しようとする自主・自立の意識は高く、それを育てる指導がなされていると思われるが、引き続き生徒一人一人に寄り添った心のケアについては、より一層の充実を図っていく必要がある。
	生徒の発達に応じた、組織的・体系的な研修を進め、生徒一人一人に寄り添った心のケアの充実が図られているか。	b	生徒一人一人の状況を教職員の組織的な対応により把握し、寄り添った心のケアの充実をより一層進める。	A	A	
進路指導	進路意識を育て、組織的・系統的な進路指導体制が確立されているか。	b	複数教員でグループを組み、組織的・系統的な指導を継続する。	A	A	生徒の進路希望を尊重した指導に取り組み、生徒個々の進路希望の実現を図ることができた。複数教員による効率化を図った指導については、継続的に改善を図っていく必要がある。
	地域人材を活用した教育活動が展開されているか。	a	地域人材を活用した教育活動が展開できており、今後も継続する。	A	A	
健康安全指導	生命を尊び、他を思いやる心と健康な心身の保持・向上に向けた指導が適切に行われているか。	a	他を思いやる心の指導等が様々な場面で適切に行われており、今後も継続する。	A	A	適切に対応していると思われるが、今後も、アンケートや定期的な面談等の実施により、適宜生徒の状況を把握し、対応していく必要がある。
	健康と安全に関する自己管理能力の育成が図られているか。	b	健康と安全に関する自己管理能力の育成に向けた働きかけを継続する。	A	A	
地域との連携	保護者や地域からの意見を積極的に聴取し学校改善に役立っているか。	b	様々なPTA活動を通して、保護者、生徒の現状・要望を把握し、今後も生徒の活動を支援する。	A	A	PTAや保護者・地域が積極的に学校活動に関与し、地域との連携に繋がっている。
	「函館学」を通して、生徒に郷土を愛する気持ちを養っているか。	a	総合的な探究の時間の年間指導計画どおり実施することにより郷土を理解させる。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。